

〔資 料〕

社会福祉学科学生の福祉への関心

——「研究法の基礎」から——※

山 口 雅 功※※

I はじめに

社会福祉学部社会福祉学科は、平成8年4月に開設された新しい学部学科で、このときに入学した学生は現在3年次生となり、その後本年入学の1年次生までの3学年が在籍している。在籍している学生数は、入学後の何等かの理由による退学者を除いて、平成10年5月1日現在で、3年次生が242名、2年次生が238名、1年次生が281名の合計761名である。これら各学年の学生諸君は、当然ながら社会福祉を学ぶ目的で入学してきた諸君である。しかしながら、学習目的や意欲には学生の目的意識によりそれなりの相違があるのも事実である。なかでも、本学部の採用している入学試験の方法によって目的意識の差異が目立つ。すなわち、3年次生では、学部設立が文部省によって認可された後あわただしく実施された公募制推薦試験、2月における一般入試（A日程）、3月の一般入試（B日程）等の試験区分によって、学生の目的意識も異なるようである。2年次生や1年次生も、それぞれの試験区分によって3年次生同様な目的意識の相違がみられる。とくに、2年次生以降は、指定校推薦試験やセンター入試等も導入されており、入試区分も複雑になってきている。

このように入試区分は、複雑多岐にわたっているのが本学部の入学試験の現状であるが、これら各種目的意識の異なる学生諸君に、それなりの問題意識を持ち、課題処理能力を有し、社会福祉の修得を進展するように指導するのが教員の任務であろう。そのためには、学生諸君が現在どのような福祉分野に関心を持っているか知ることが重要かと考える。筆者は、社会福祉学科2年次生全員に「研究法の基礎」という専門科目を担当しているので、当該授業で実施したレポート（小論文）から、学生諸君がどのような福祉分野に関心を有しているか紹介する。

※A Matter of concern and interest to the Welfare by Social Welfare Students: From "Elements of Research Method"

※※ Masanori YAMAGUCHI 立正大学社会福祉学部社会福祉学科

キーワード：研究方法、机上研究、卒業論文、研究希望内容

Ⅱ 「研究法の基礎」での講義内容とレポート（小論文）

筆者の担当している「研究法の基礎」は、基本的には2年次生の全員が履修することになっている。単位数等は、半期開講の講義科目で2単位の科目である。筆者は昨年度に始めて本科目を担当し、本年度で2年目に入っている。昨年は後期に当時の2年次生全員を対象に開講したが、本年度は現2年次生の半分以上を前期に、残りを後期に担当している。本科目の講義にあたっては、社会福祉を学ぶにあたっての研究方法について各種の視点から講義している。講義の前提としては、ゼミナールの論文作成や各種レポートの作成、4年次生で履修することになる卒業論文（選択科目）作成を前提として講義してきた。

そこでは、論文やレポートを如何に有効・合理的に作成するか、そのためには課題や論題にたいしどのように研究を遂行するのかを念頭において、その研究の方法を種々の視点から講義し、かつ、その結果を論文・レポートへのまとめ方を講義してきた。研究の方法としては、学生個人のデータベースの作成、机上での文献調査、フィールドワークとしての調査方法等をアンケートの例を取りながら説明してきた。その過程で小さい課題も提出させたが、講義の最後には、単位請求としてのレポート（小論文）を提出させた。

Ⅲ 学生の指向する論題

このレポート（小論文）は、講義の終了の数回前に課し、「各自が関心を有する福祉の研究方法」という課題で、「このことに関して机上での研究を行ない、文献探索や読破を通して、研究方法についてまとめ、方法は具体的に書き、文献は多いほど良い。また、文の構成に注意すること」となっている。提出された用紙は、筆者が与えた指定用紙（B－4版、44文字×32行）1枚で、この分量に広義・狭義の福祉分野を問わず、関心を有する福祉分野の論題を遂行するにあたっての研究方法を、小論文にまとめるものである。

この課題は、現在すぐに卒業論文を書くならばという前提条件として、その研究目的と方法を小論文とする課題である。すなわち、いわゆる論文・レポートの序論の部分を、この課題では序論・本論・結論とする小論文で、インドワークとしての机上研究によって作成したものである。この課題に対し、学生諸君は積極的に取組み、内容の濃い小論文が数多くみられ、講義担当者としての筆者も満足している。以下、学生諸君の提出した論題を提示しながら、学生はどのような福祉分野に関心を持っているか述べてい。なお、本稿で述べる学生諸君の論題は、昨年度の「研究法の基礎」での論題のみで、本年度の論題は含まない。本年度の論題や内容には本稿同様の多様性がみられるが、これらの紹介は次の機会に述べたい。

以上の論題から、学生諸君はどのような福祉分野を指向しているのか、筆者なりの推定を行った。そのために、学生諸君の論題をいくつかの福祉分野に分類した。分類にあたっては、

いわゆる図書館十進分類と全社協の分類¹⁾，その他福祉の専門書を参考にして，筆者なりの分類としたが，不備が多々あることと思う。

学生の論題は，全体で220編であった。在籍学生数と一致しないのは未提出等の為である。これらの論題を上述のように分類して表－1から表－9にまとめた。ここに掲載した論題は，原則として学生の作成した論題そのまま，若干の学生については筆者が論題の一部ないしは全部を修正した。一部を修正した論題は15本，全部を修正した論題は2本であった。後者の2本は偶然にまったく同じ論題となってしまったため，内容から修正をしたものである。論題の中には，「……………の研究」「……………について」と当然のことを書いてあるものもあるが，ここではそのままとした。

学生の論題を筆者なりに分類したなかで，もっとも多かったのは，老人福祉・高齢者関係の論題であった。これらの本数は，56編を数え，全体の25％であった。これらの論題は表－3に示してある。ついで多かったのは，表－4の障害者福祉関係の39編で，ついで表－5の児童福祉および青少年問題関係と表－6の地域福祉と在宅福祉関係で，前者は31編，後者は30編を数えた。以下，ボランティアおよび医療福祉関係（表－8），福祉全般（表－1）となっていた。これら以外に，表－2の海外の福祉関係，表－7の家族福祉関係が若干あり，福祉とは縁遠い論題も17編とあった。

以上の論題をみると，学生の大学における現在（2年次）までの勉学に関して論題（関心）が選ばれているものと思われる。すなわち，社会福祉の分野は幅が広く，学生諸君は多くの科目を履修できる条件にあるが，その大半を履修していない。たとえば，推定であるが，公的扶助や社会保障等の科目を履修していないことにもよるであろう。社会福祉の多くの科目を履修することによって学生諸君のニーズは拡大し，視野の開けた人間性が育まれるものと考えられる。今後の成長を期待したい。

最後に，本稿は，社会福祉学科第1期生の2年次後期において実施した結果である。今後，同様の論題を課して，「研究法の基礎」のまとめとともに，学生がどのような考えを持っているか継続的に調査を行ないたい。

参考文献

- 1) 分類にあたっては，下記の書物に記載してある目次・資料や分類を主として参考にした。
田代国次郎・大和田猛編（1995）：『社会福祉研究入門』294 p.，中央法規出版。
川廷宗之（1997）：『社会福祉教授法－介護福祉士・社会福祉士・保母養成教育の授業展開－』260 p.，川島書店。
東京都社会福祉協議会（1992）：『蔵書目録 調査（研究）・委員会報告書一覧』611 p.

表一 福祉全般の論題

優生保護法と社会的弱者の排除について
21世紀に向けての福祉改革
福祉と教育～福祉教育の充実を図るために～
日本の社会保障
～現代社会における社会保障の役割と課題～
一人の人間としてのソーシャルワーカー
日本における貧困とは何か
～福祉事務所・救護施設を通して考える～
福祉について～多岐にわたる福祉のあり方～
ソーシャルワーカーの現状と課題
人権について考える
～磯村英一の人権とその考察～
高齢者及び障害者への福祉の在り方
現代社会の福祉問題～現状策及び今後策～
ケースマネジメントについて
～生活を支える援助システム～
社会福祉におけるカウンセリングの問題点
改正が続く保険法
第二次世界大戦後の社会福祉
マザーテレサに学ぶ社会福祉のあり方
ソーシャルワークとカウンセリング
生活保護制度の現状とこれからの課題
非常時における福祉の有効性・機能

表二 海外の福祉関係論題

世界の高齢者福祉～日本と世界の高齢者福祉～
ADAに見るアメリカ～日米福祉比較～
日本の福祉と海外の福祉～社会福祉士の場合～
外国の福祉と日本の福祉
国境を越えての福祉

表三 老人福祉・高齢者関係の論題

これからの老人福祉
高齢者と交通施設
老人ホームにおける処遇
～人生・生活の場として～
今後の老人福祉
高齢化社会と医療

高齢者に生きがいを与えるには
高齢者の生きがいと社会参加
高齢者の住居
～在宅ケアのニーズに応える住居～
高齢化社会
～高齢化社会の諸問題と今後の課題～
寝かせきり生活からの自立
高齢者の健康と生きがいについて
高齢化社会における老人看護について
最も良い特別養護老人ホーム
老人ホームにおける「若い」
痴呆性老人の介護
要介護老人における在宅介護
高齢化に伴う医療費の増加
特別養護老人ホーム入居者の人権尊重について
特別養護老人ホームにおける排泄の問題
より良い老人福祉施設の在り方
老人ホームの居住実態
老人福祉法の目的について
老人福祉について
痴呆とは何か
社会における老人の立場について
老人～祖母の行動から～
高齢化社会へのルール作り
高齢化社会と老人の介護
高齢化社会と高齢社会
柏崎市における老人福祉
高齢者の心を探って
ワンランクアップのための介護
高齢者の自殺について
痴呆性老人をとりまく環境
特養ホームで楽しい老後は暮らせるのか
～利用者の需要と施設内のクオリティオブライフ～
要介護老人の在宅ケア
～家族とのつながりと介護人へのケア～
高齢者をとりまく家族の役割
老人ホームが今後解決する必要がある
問題点とは
高齢者社会問題
高齢化社会と老人福祉
老人ホームと介護人
国民年金保険制度と高齢社会の関連性

およびその展開
日本の公的年金制度
過疎地域の高齢者の生活実態
老人の生活を知る
～ソーシャルワーク実践の視点から～
老人福祉について
シルバー産業の将来性について
～民間によるサービスの供給～
水俣病高齢者の現在と処遇
在宅介護における現状、問題、未来
公的年金制度
高齢者の人生の終盤期と社会福祉
高齢者と生きがい
介護保険について～2000年度の日本～
家庭介護における家族の負担
～特に女性に関して～
老人福祉の現状と今後の課題
高齢者福祉の現状とこれからの課題

表-4 障害者福祉関係の論題

障害者の社会参加とその施策
知的障害者の概要と福祉
知的障害者への援助
～自立と援助について考える～
障害者と雇用・就労
対人地雷について
ベースボールトレーニング
ボランティア活動～障害者とともに～
言語障害とコミュニケーション
自閉症とこだわり行動
精神薄弱者に対する
福祉サービスについての現状と課題
～施設、在宅サービスについて～
身体障害者の心理
～援助者と要援助者の関係と障害の受容～
スポーツと障害
スポーツと福祉
スポーツを通じて行なう福祉
精神障害者の理解と社会復帰
障害を有する人におけるコミュニケーション
障害者のスポーツ
レクリエーションで治療はできるか

～セラピューティックレクリエーションの
実際と展開～
これからの福祉に必要なもの
～「障害者」と呼ばれる人たちの自立～
精神障害者の障害の分類
「障害者の自立」について
～地域福祉とともに「自立」を
どう進めるか～
障害者を取りまく環境とノーマライゼーション
精神薄弱者たちのニーズと現状
障害者をもつ家族の生活と
それを取りまく社会環境
リハビリテーションにおける
身体障害者スポーツ
知的障害者の生涯のあるべき姿
身体障害者と社会参加
～障害者から見た現実～
障害の受容
盲ろう者の視点、彼らのまわりの視点
盲導犬について
援助者のノーマライゼーションについて
都市生活と障害
障害を持つ人と共生することの意義
障害者との共生
障害者の就労と働きやすい社会
障害者とスポーツ
親が障害者になったときの為の考察
聴覚障害のもたらす生活障害とその克服
点字への関心度の高まりと現代社会

表-5 児童福祉および青少年問題関係の論題

障害児の教育について～肢体不自由児の場合～
肢体不自由児・養護学校の全て
精神遅滞児(者)について
若者達に広がるドラッグ
～ドラッグ世代の誕生～
登校拒否について考える
障害児の教育と発達
養護施設とその子どもたち
児童福祉施設～養護施設～
未成年者の非行及び犯罪とその背景について
養護の必要性と課題

子どもにできること～子どもを生かすために～
スクールカウンセリング
～学校における心の教育～
いじめを読む
～いじめの実態とそれに対する予防教育～
児童福祉について
児童虐待の起こる家庭の背景と子供のケア
離婚による子供への影響
障害児・者福祉施設の現状と今後の展開
幼児虐待とケア
自閉症への理解
～自閉症児（者）の社会的自立と
その可能性をさぐる～
障害児（者）を抱える家族の援助
自閉症児と問題行動
精神薄弱養護学校中等部・高等部における教育
小児リハビリテーションについて
いじめはなくなるのか
～いじめと子どもの心理～
児童養護施設の役割～施設、施設職員の業務～
がんばれ“チビッコ”
教育と児童福祉
児童問題
～主として虐待、いじめ、
犯罪の視点から～
青少年の犯罪について
現在の児童福祉施設の現状と課題
養護学校にみる特殊教育
～障害児教育を考える～

表－6 地域福祉と在宅福祉関係の論題

高齢者の在宅福祉サービス
地域福祉の課題と展開
高齢社会と在宅福祉
～高齢者のＱＯＬを考える～
在宅福祉サービスの現状と在宅高齢者問題
小地域福祉活動について
市町村における在宅福祉サービス
居住と福祉
在宅福祉サービス
バリアフリーのまちづくり
福祉施設の在り方

ホームレス問題
利用者とのコミュニケーション
～本当の介護を追及する～
やさしさとは何か
～利用者に対するやさしさとは～
在宅福祉の現状と課題
少子化問題とその対策
高齢化問題と諸サービスの現状
～埼玉県川越市の場合～
福祉施設やサービスの現状
～地方の福祉施設を調べる～
在宅福祉の有用性
利用者と指導員の依存と援助
高齢社会の中の高齢者の生活
～高齢者の在宅福祉を考える～
熊谷市の一人暮らしのお年寄りの生活実態
地域と密着した福祉
～現在の在宅福祉と今後の課題～
「民生委員」の仕事内容と地域での
役割について
～民生委員の成立期から現在まで～
新しい社会福祉のまちづくり
地域福祉～住民参加型の社会福祉～
地域福祉における
ボランティアの重要性、課題、限界
ふるさとの社会福祉の実態
在宅福祉に対する行政によるサポートの地域差
ホームヘルプサービス事業
福祉施設の実体とこれから

表－7 家族福祉関係の論題

親と離れて暮らして
現代家族の問題について
～親子関係・母子関係はどのように
変わったか～
母子家庭における児童心理と問題性
母子寮の必要性～母子寮の全体的把握～

表－8 ボランティアおよび医療福祉関係の論題

ボランティアの可能性
ホスピス

人生の終末期におけるケアの充足

～その人らしく死を迎えるために～
 医療と福祉のつながり～生きがいを求めて～
 死とターミナルケア
 終末医療と社会福祉～終末期患者の看護～
 幸福な死～死をどうむかえるか～
 医療と介護の相互関係
 患者を理解して看護することについて
 ～患者との心のつながり～
 社会福祉施設での医療の働き
 医療ソーシャルワーカーの役割
 エイズ問題について
 ボランティア
 医療や福祉の現場での音楽療法
 有償ボランティアの問題
 医療と福祉
 ～医療ソーシャルワーカーについて～
 ボランティアの実際
 臓器提供・移植のシステムと実態
 病院における福祉的援助
 ～人と向き合う「こころ」の仕事～
 ボランティアの現状とこれから
 ハンセン病患者の差別の歴史

表-9 その他の論題一覧

自殺～人はなぜ自ら死を選ぶのか～
 途上国における地球環境問題
 ～貧困がもたらす影響～
 消滅する人間
 ～地球を襲う「生命の衰退」の背後には何
 があるのか～
 環境問題と地球の将来
 環境汚染について
 環境問題と人類の将来
 環境権について
 車社会～排気ガス問題への対処～
 日本の内閣について
 健康に生きる
 人はなぜ“異性”を“意識”してしまうのか
 ～なぜ人は“異性”を求めるのか～
 ラグビーに気付かされた自分
 メンタル・マネージメント～勝つことの秘訣～
 私にとっての真理
 ～学生生活で学んだもの、
 学んでゆくもの～
 合併・政令都市の実現を目指して